

32 「教育協働」の最前線？重要なことは、「3 T」を協働で生み出すことである？!

堂本 彰夫

(1) 懐かしき「PW3 T論」！しかし、これは、何も社会教育側の専売特許ではない？!

もう随分前のことであるが、ここでも、「PW3 T論」という怪しげな理論（エピソード？）を紹介したことがある？！それは、ある大学の名物教授（故人）の自説（パロディ表現？）であったが、私の、R大学赴任前の職場（当時名：国立社会教育研修所）での、したがって、若き日の（そうでもないか？）思い出となっているものの一つである！何故か、ずっと心に残っていて、その後、私も、彼に倣って（パクって）、「P I 3 T論」ということで、ある時の受講学生達に、その論（エピソード？）を紹介していたが、今、改めて、このことが、まさに「教育協働」の意義を導く論理となっていくのではないかと考えているということである！ちなみに、お分かりだと思うが、PW（I）とは、プロフェッサーW（I）ということであり、3 Tとは、「ためになること」「大切なこと」「楽しいこと」の頭文字である！遊び心（言葉遊び）が過ぎるという批判もあろうが（学問的ではない？）、私としては、改めてしっくりするものがあるということである！

要するに、「教育」とは、学習者（人間）にとっての「大切なこと」「ためになること」、そして「楽しいこと」を企画（プログラム化）し、それを提供することだということであるが、ただ、学校教育（小中高）の場合は、例の「学習指導要領」というものに則った「教育課程（カリキュラム）」によって、そのことが実現されることになっているので、「大切なこと」「ためになること」はともかく、「楽しいこと」は、なかなかイメージし辛いものとなってきた（だから、それは、社会教育側の専売特許ともされた？しかし、それが、ただ遊んでいるだけというような誹りも受けた？）？！「レクリエーション」というものが、そうした印象をもたらしたとも言えるが、実は、そこにも、「大切なこと」「ためになること」は、多々あった（る）のである？!

まあ、それはともかく、問題は、今、何故、こういうことを言い出すのかであるが、最近の学校教育においても、この「3 T」が採り上げられ（尤も、表現は違うが→「主体的・対話的で深い学び」）、やはり、これは、教育／学習の普遍的な意義なのではないかと思うからである！新しく設定された「探求学習」（総合的な学習の時間）が、その顕著な例であるが、各地の「実践例」においては（もちろん取捨選択されてはいるであろうが！）、ある意味、その「3 T」が実現されていると思うからである！自ら課題（テーマ）を発見し、それを仲間と共に考え、発表し合い、その解決策等を見出していく！それが、「大切なこと（の発見）」「ためになること（の実感）」、そして、「楽しいこと（の実現）」へとつながって（循環して）いくのである！

もちろん、ここでの「楽しいこと」とは、遊びながら、気楽に、そして自分勝手にやることではない！「分かろうとすること」「仲間と一緒にやること」、そして、「そこから得られる充実感」の総体である！しかも、そこに、いわゆる「知識」「技能」「態度」（最近の「評価」の枠組みは、少し異なっているようだが？）の習得のプロセスが複合的・重層的に組み込まれているのである！それが、まさしく教育／学習の神髄なのである！ちなみに、教育を伴わない学習（自己教育？）という捉え方もあろうが、そしてまた、その教育を伴わない学習が、最も価値ある学習と言われるかもしれないが、実は、その学習さえもが、何らかの教育（家庭、地域、学校等）のお陰（成果）で実現しているものである！だから、「人間は、教育によってのみ人間となる！」（J. ルソー）ということにもなるわけである！

(2) テレビドラマが再確認させてくれた「学校」の意義？！そこに示唆されているものは？

ところで、現在、NHKで、「宙そらわたる教室」というドラマをやっている（総合の「ドラマ10」枠／10月8日より）！面白いので（と言うより、考えさせるものであるので？）毎回見ているが、このドラマのことを少し知りたいと思って、背景等をネットで調べてみた！そうしたら、これは、「伊与原新」という人の同名小説をドラマ化したものであることが分かった。しかも、この小説は、2023年10月20日に文藝春秋より刊行されたもので、第70回「青少年読書感想文全国コンクール」の課題図書（高等学校の部）でもあるということであった（確かにね!）。

しかるに、この小説は、大阪府の、とある定時制高校（二つの高校？）の科学部の生徒達の実話からのアイデアを得て書かれたものであるらしく、年齢も、抱える事情もさまざまな生徒達（当然そうであろう？）が、2017年の科学研究の発表会「日本地球惑星科学連合大会・高校生部」で優秀賞を受賞し、彼らの実験装置は意外な人物の目に留まり、「はやぶさ2」の基礎実験に、科学部として参加する想定外の事態もあつたりとか！まさに、この実話に着想を得て生まれたのが、この「宙そらわたる教室」であるようである！

そして、一方、このドラマの方は、「胸熱の感動小説『宙わたる教室』を、窪田正孝さんを主演に迎えてドラマ化！」したもので、「あらすじ」として、「東京・新宿にある定時制高校。そこにはさまざまな事情を

抱えた生徒たちが通っていた。(ディスレクシアによる)負のスパイラルから抜け出せない不良の男子生徒。授業についていくことを諦めかけた、フィリピン人の母と日本人の父を持つ女子生徒(高校生の娘を持つ母親)。起立性調節障害を抱え(リストカッター)、保健室登校を続ける女子生徒。青年時代、高校に通えず働くしかなかった男子生徒(団塊の世代→いわゆる「集団就職組(金の卵)」)。年齢もバックグラウンドもバラバラな彼らの元に、謎めいた理科教師(窪田正孝)が赴任してくる。彼の導きにより、生徒らは、教室に『火星のクレーター』を再現する実験で学会発表を目指す、自身が抱える障害、家庭内の問題、断ち切れない人間関係など、様々な困難が立ちほだかり…」(一部加除修正した)とある。

ちなみに、「原作者である伊与原新さん自身、学生時代にお世話になっていた教授から聞いた定時制高校の科学部の話がきっかけにこの小説を書かれたそうで、ご本人は実話から着想を得たフィクションと語っています」ともあるが、改めて、ここで示されている様々な青春模様、否、人生模様が、演者の名演技も伴って、というか、私にはとても身につまされるものばかりであるので、エンタメドラマを遥かに超えて、鋭く私に迫ってくるということである！極論すれば、それは、先の「3T」の意義をリアルに感じさせるものであるということである！学ぶということ、つまり「3T」を得るということは、ある場所、ある関係があれば(もちろんそこには指導する人がいる!)、誰にでも、どこにでも出来し、それが、それこそ「人生」における重要な契機となり得るということである！

(3)でも、やはり「学校」だけでは無理なのだ！限界があるのだ！であれば、どうしたらよいのか?!

ということで、「学校」というものは、そういうところであり、その存在意義は、とてつもなく大きいということであるが、しかし、その場や関係は、最早特別な「定時制高校」にしかない?!もちろん、そういうことではないであろうが、そうした事実?が、なかなか見えにくくなっているのが、残念ながら、今の学校の状況でもある?!だから、それが、ここでは、「定時制高校」という、ある意味特別な(社会的に不利な?)学校ということで、皮肉にも?そこで実現されていることが、一際賞賛されるものともなっている?!つまり、そこには、半ば逆照射的に、大切な「教育と学習の関係」が浮かび上がらされているとも言えるのである?!しかも、その先生は(周囲の、他の一部の先生も?)、その指導方針というか、教育に対する考え方が、はっきり言えば、現在の、普通の現場の先生とは違う(実話では、どうだったのかは分からないが?)?!その意味で、新しいタイプの、ある種のヒーローとして描かれている(それらしく見せていないのがミソでもあるが?)?!

否々、かなり長くなったが、ここでの論としては、そういうことはどうでもよいのである?!これまでも、数多くの学校(教師)物語はあったし、その都度、その感動や問題提起は、社会において共有されてもいる(ヒーロー/ヒロインへの賛否も含めて!)?!だから、ここで再確認したいのは、今の教育現場(学校)は、「3T」の意義を実現させるには、甚だ厳しく(様々な工夫・改善が重ねられたにも拘らず?)、その役割さえ放逐しようとしているのではないかということであり、もし、そうであれば、別の方途(回路)を、新しく創り出す必要があるということである！そのことを示唆するものが、本ドラマであり、その形を自らの手で実現しようとしている(きた)のが、先の渋谷区(「探求学習(総合的な学習の時間)」の一括午後実施)、長野県泰阜村(NPOと村の共同体化)やN市H公民館(学校への一部常駐化)の取り組みだということである(31と30)!

要は、「学校」だけでは無理なのであり、限界があるということであるが、それは、「最早学校には、そうした役割(機能)は不要である！」とか、あるいは「そういうことは、他の特別な教育機関や組織に委ねるべきである！」というような論にはならないということであり、逆に、その役割さえ放逐しようとしている?学校に、新たな活力とやり甲斐を、もう一度生み出させるようにすることが重要であるということである！何故なら、どんなに苦境に晒されても、かの「3T」を実現させる場としては、学校が、一番その可能性(潜在能力)を有していることは間違いなく(それがあ限りなくなならないということでもあるが!)、それを生かさない手はないということである！言い換えれば、それを失くしたら、最早学校ではないということでもある(それこそ、ロボットや、その他のICT技術だけで事足りるということである?)?!

最早、明らかであろう！やらなければいけないことは、学校のもつ「3T」の役割(機能)を、家庭や地域の協力を得て復活、再生させることである！それしかない！だが、現状は厳しい！では諦めるか?しかし、そうなっては、ますます事態は悪化していく?!もちろん、これまでも、そうならないために、数多の対策・対応が為されてきたとは言える(近年のCSや地域学校協働本部事業等は、その最たるものである!)?でも、なかなかうまくいかない(例えば、かの不登校数は過去最高となっている!教職員の病休等もまた!)?実施数自体は増えているが、その成果がなかなか見えない?!やはり、お手上げなのであるだろうか?否、そうではない!上に挙げた取り組み以外にも、その可能性を示すものは無数にある!ただ、そこには、それを実現しようとしている人間が、たとえ少数であっても、必ずいる!そして、彼らが、多くの仲間や理解者を得る!そこ(否、そここそ!)が重要なのだ(今回は、あまりそのことには言及出来なかったが!)!

(つづく)